

【添付資料】「YKK ファスニングアワード」第21回（2021年）グランプリ受賞者コメント

第21回（2021年）は、アパレル部門 行廣 賢太さん（香蘭ファッションデザイン専門学校）、ファッショングッズ部門 鄭 振甫さん（文化服装学院）がグランプリに輝きました。受賞作品に対する想いを紹介します。

■受賞作品に対する想い

【アパレル部門】 行廣 賢太さん（香蘭ファッションデザイン専門学校）

デニム生地とファスニング商品を効果的に組み合わせシルエットを作り出す工程では、パターンとトワルに向き合い、試行錯誤しました。タックボタンでシルエットに変化をつけ、リベットバーで補強と装飾を施しています。いずれもデニムと歴史的に深い関係があり、これらを用いて飾り気のない美しさを意識しました。ジャケットの袖底にはEXCELLA®を忍ばせ、袖の可動域確保とシルエット補強の役割を持たせています。

多くの排水が生じるデニムの素材加工ですが、この作品では排水を出さずに時間の流れを表現する方法を考え、デニムの渦を手作業で作りました。環境に配慮されたオリジナリティのある創作が今後の活動に必要なだと考えています。

将来は、世代や性別を問わず「この洋服を着たい」と感じてもらえる、生活に寄り添う洋服を届けていきたいです。いずれは海外のコンテストや留学に挑戦したいと思っています。

【ファッショングッズ部門】 鄭 振甫さん（文化服装学院）

革の技術とフェイスシールドを組み合わせることで面白い作品ができるのではと通常の「鞆」ではなく斬新な作品の制作に挑戦しました。この作品はレザーベストとフェイスシールドの結合にファスナーを用いていますが、結合部は大きくカーブしているため縫製に苦労しました。素材に関しても防水機能のある革を選択しましたが、限られた色数の中での色選びが難しかったです。

AquaGuard® メタリック調フィルムのテープ裏面に革を接着し、デザインに統一感を出しています。革を使用した作品の制作では高級感のある EXCELLA®を選択することが多いですが、今回初めて AquaGuard®を使用し、撥水性のある良い製品だと感じました。防水機能を持たせる作品の制作に引き続き使用したいです。

将来はデザイナーとして、長く使えて、地球に優しい素材を使用したものづくりをしていきたいです。

将来はデザイナーとして、長く使えて、地球に優しい素材を使用したものづくりをしていきたいです。

以上

